

## REPORT「きのくにの三画人」

田辺市立美術館は昨年、開館から25周年を迎えました。これを記念して、 近世画壇で活躍した文人墨客の中でも特に、後世に"紀州の三大文人画家" として名を遺した、祇園南海(ぎおん・なんかい/1676~1751)・桑山玉 洲 (くわやま・ぎょくしゅう/1746~1799)・野呂介石 (のろ・かいせき /1747~1828) の画業を紹介する特別展 [きのくにの三画人] を昨年10 月から今年2月にかけて3部に分けて開催しました。このうち、第1部と第 2部については、期間中に開催される「紀の国わかやま文化祭2021」に合 わせた特別連携事業として実施し、紀州が誇るこの三画人の業績を改めて 広く紹介する機会としました。

第1部:祇園南海の会期中は当文化祭の只中であったことによる効果か、 多くの方々に観覧いただくことができました。第2部:桑山玉洲については、 会期の前半で文化祭が終了を迎えましたが、会期の後半には暫く行うこと が出来なかった展示解説会を開催し、参加者の方々にご好評いただけまし た。第3部:野呂介石の会期では、展示解説会は開催できましたが、予定 していた公開対談については、また猛威を振るい始めた感染症の拡大を防 ぐため、残念ながら中止となりました。一方、会期を通して展覧会クイズや スタンプラリーを実施、積極的に参加いただいた方々の中には各会期全て をご覧いただいた方も多く、紀州の文人画の魅力を少なからず感じていた だくことが出来たのではと思っています。

(主任 辰巳 充)



「きのくにの三画人 | 第3部:野呂介石の会場

#### 田辺市立美術館へのきもち26

私は現在、田辺市立美術館近くにある県立情報交流センター Big·U内 の和歌山大学南紀熊野サテライトに勤務しています。田辺市立美術館と の関係は、今から16、7年前に勤めていた串本高校の教員時代に遡りま す。同校には資料館があり、原勝四郎の現存する最初期の作品《木槿》を 所蔵していました。そのため、田辺市立美術館が原勝四郎展を企画する 際に、同館の学芸員、三谷さんから貸し出しの依頼があり、当時、同窓会と 資料館の担当をしていた私が対応しました。三谷さんとは、それ以来のお 付き合いで、これまで親交を深めてきました(同作品は、その後、田辺市立 美術館に寄託という形で「里帰り」することになりました)。そのことがき っかけとなり、私自身、展示替えがある度に田辺市立美術館に通うように

なって、現在に至っていま す。昨年、定年退職したと きの勤務校、桐蔭高校の校 長室にも、原勝四郎の傑作 の一つと言える《浜辺の 風景》が飾られており、何か の縁を感じました。

田辺市立美術館は、全国 的にみて小規模の美術館で すが、展覧会の企画や展示 解説等については定評があ ります。また、脇村兄弟の コレクションに加え、原 勝四郎や野長瀬晩花、昨年



お亡くなりになった稗田一穂 美術館前の花壇はいつも花いっぱいです

等の生誕の地にある美術館として、それらの作品がまとまって収蔵され ており、他の美術館からしばしば貸し出しの依頼があると聞いていま す。今後はコレクションの更なる充実のために、アートファンド的な基 金として、クラウドファンドや市民の寄付を募るような仕組みを導入す れば良いのではと思います。

また田辺市立美術館は、たいへん自然環境に恵まれた美術館です。広 大な敷地の新庄総合公園内にあり、樹木や植物等が豊かで、季節の移り 変わりを感じることができ、自然と文化が見事に調和しています。その 上、公園内には野外劇場も備わっており、憩いの場として、県内外を問わ ず老若男女が集っています。私は、余裕があれば勤務時間前や昼休み等 を利用してウオーキングやジョギングを楽しんでいます。コロナ禍で は困難だと思いますが、一層の活性化のためには、最近田辺市内でも増 えているキッチンカーを使ったグルメ選手権や、大規模なバザー、蚤の 市等の定期的な開催、あるいは、コンサートや演劇、ダンス等のパフォー マンスの場としての野外劇場の積極的な活用が考えられるのではない でしょうか。公園の敷地や設備がこれまでにない取組で、より多くの人 に活用されれば、その延長として、美術館の来館者も大幅にアップが見 込めると思います。

芸術は人生を豊かにします。豊かな人生のためには日常生活に美術 や音楽が必要です。その意味で、家庭のリビングの延長として美術館が あることが理想です。公園内を散歩して五感で季節を感じ、美術鑑賞が できるのが田辺市立美術館の最大の特徴です。勝手な「きもち」ばかり 申しましたが、運営にあたっておられるスタッフの皆さんに敬意を表し つつ、より一層文化的に賑わう美術館であってほしいと願っています。

(和歌山大学南紀熊野サテライト 地域連携マネージャー 木皮 享)

編集・発行:田辺市立美術館 発行年月日:令和4年4月1日

# 田辺市立美術館NEWS ORANGE Vol.36

田辺市立美術館

〒646-0015 和歌山県田辺市たきない町24-43

田辺市立美術館分館 熊野古道なかへち美術館

〒646-1402 和歌山県田辺市中辺路町近露891 TEL.0739-24-3770 FAX.0739-24-3771 TEL.0739-65-0390 FAX.0739-65-0393

#### 編集後記

今号もお手にとっていただきありがとうございます。折込 みの展覧会案内とスケジュールは、切り取って折りたため ばコンパクトに保管できます。休日の予定を決めるきっか けになど身近に活用していただければ幸いです。 皆様のご来館をお待ちしています。

(F.O.)

# 田辺市立美術館NEWS

# ORANGE



鍋井克之《夢殿(法隆寺)》1930(昭和5)年

田辺市立美術館蔵

#### 作品紹介 鍋井克之《夢殿(法隆寺)》

鍋井克之(1888~1969)は、1930(昭和5)年に刊行した著作『新しき風景画の進路』の中で、自身 の仕事について「西洋画の約束である伝統的な技法から逃避せずに、日本画の領域へ踏込んでゆくこと で、「油絵日本画」を創作すること」と語っている。鍋井は西洋画の技術の根底に写実を見ており、それに 基づきながら日本人独自の油彩画の世界(油絵日本画)を開拓することを生涯の目標とした。

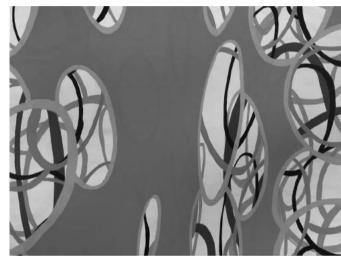
本作のように、日本の古建築をモチーフとすることも「日本画の領域へ踏込んでゆくこと」の一つであった だろう。現地で写生を重ね、日本画の線描とは異なる、粘り気のある筆触と明るい色彩を用いた油彩画 の描法によって、この殿堂の重厚な存在を写しとっている。鍋井の意図した「昔ののどかな、何処となし にゆったりとした、太古の音楽でも聞えて来るような感じ」は、充分に表現されていよう。日本の風景を 描いた油彩画の中に特筆されるべき作品となっている。

(学芸員 三谷 渉)

## 湯川雅紀のワークショップと展覧会

田辺市立美術館では、熊野古道なかへち美術館を会場にして講師のアーティストと一緒に作品をつくるワークショップシリーズ「くまびで作ろう!」を開始することを、2019(平成31)年度に計画しました。しかし新型コロナウイルス感染症の影響で止む無く中止となり、その後も何度か日程を調整し、昨年度末にも改めて開催を予定しましたが、それらもすべて断念せざるを得ませんでした。

昨年度からワークショップ開催の後に、講師に招いたアーティストの作品を紹介することも計画に加え、展覧会の準備もワークショップの用意と同時に進めてきました。残念ながらワークショップは実施できませんでしたが、「くまびで作ろう!」第一回目の講師として依頼した、絵画における空間の問題をテーマに独自の表現を探求し続けている、湯川雅紀(1966~)の近年の制作を紹介する展覧会は、この4月から田辺市立美術館で開催できる見通しとなりました。



湯川雅紀《流星群4》 2015(平成27)年

湯川は和歌山県海南市に生まれ、1989(平成元)年に和歌山大学教育学部を卒業し、1991(平成3)年に大阪教育大学大学院美術教育研究科を修了しました。その後1996(平成8)年までドイツの国立デュッセルドルフ芸術アカデミーに学び、マイスターシューラー(最高学位)を取得、ドイツを拠点に制作を続けながら、日本でも1998年の「VOCA展'98」でVOCA賞を受賞しました。2010(平成22)年に帰国した後も、意欲的に制作と発表を続けるとともに、教育にも携わり、現在は関西福祉科学大学教育学部の教授を務めています。

ワークショップは、様々な道具を使って大きな絵を描くことをテーマに計画していました。続く展覧会では、湯川がドイツから帰国して以降の約10年間の制作に焦点をあてて、作品を展観します。多様な円形で層状の画面を構成する湯川の絵画は、作品上に緩やかで複雑な空間を生み出し、時には画面の外へと鑑賞者を促します。本展覧会の開催にあわせて制作される最新作も展示の予定です。皆様のご観覧をお待ちしています。

(学芸員 知野 季里穂)

#### INFORMATION

#### 特別展

湯川雅紀 2011-2022

会 場/田辺市立美術館

観覧料/600円(480円)

※学生及び18歳未満の方は無料

期/2022年4月16日(十)~6月26日(日)

開館時間/午前10時~午後5時(λ館は午後4時30分まで)

休館 日/毎週月曜日・5月6日(金)

# 文人画や南画の山水風景

日本には鎌倉時代の中頃、禅宗の流入とともに多くの中国絵画が流入し、特に水墨山水と呼ばれる宋元時代の絵画は禅宗寺院を中心にもてはやされることとなりました。その後、室町時代に盛んとなった水墨画による山水表現は、それまでの伝統的な日本絵画の景観表現と相まって独自の様式を生み出します。

江戸時代に入ると、鎖国のため対外交易の多くは長崎の出島に集中しており、オランダや李氏朝鮮とも交易は行われていましたが、流入した文物の大半は中国文化を紹介するものでした。中でも明清の南宗画(南画)は、職業画家が描いた写実的な山水風景ではなく、絵を描くことを専門にしない士大夫と呼ばれる「文人」が描いた、「写意」を重んじた心象風景としての山水図でした。

この描き方は中国舶来の文化に憧れた日本の知識人たちの多くを虜にし、やがてこの「写意」の表現に、実際の景色(実景)を取材した成果を取り入れる描き方が流行し始めます。この描法は「真景図」と呼ばれ、先人の模倣だけでは到達することのできない真の山水図を描く方法として後世の文人画家たちにも受け継がれていきました。

開国後、明治維新を経て様々な外国文化が流入し、文人画や南画における風景表現も西洋絵画の影響を大きく受けることとなりましたが、近世以来の伝統を継承して後の世代に大きな影響を与えた画家や、大正に入ると新しい南画を発表する画家なども現れ、これまでに培われた文人の精神を引き継ぎながらも新しい時代の風景表現を試みる画家たちが多く活躍しました。

熊野古道なかへち美術館で開催する「胸中の山水一文人画と南画ー」は、 江戸時代に隆盛した文人画と明治以降の近代南画に描かれた山水風景の 表現の違いに注目する展覧会です。

(主任 辰巳 充)



池大雅《楓林停車図》

田辺市立美術館寄託

#### **INFORMATION**

#### 館蔵品展

胸中の山水 — 文人画と南画 —

会場/熊野古道なかへち美術館

観覧料/260円(200円)

※学生及び18歳未満の方は無料

会 期/2022年4月16日(土)~6月26日(日)

開館時間/午前10時~午後5時(入館は午後4時30分まで) 休館 日/毎週月曜日・5月6日(金)

## 新収蔵作品について

昨年度は、4点の作品を購入し、24点の作品のご寄贈をいただきました。

購入した作品は、織作家、中野恵美子(1941~ )の《香彩》(1984年/215×150×d.40cm/立体)と《連なる》(2007年/210×300 cm/タピスリー ※右下の図版)で、2点とも、昨年に開催した特別展「現代の織V 中野恵美子」に出品していただいた作品です。同展に出品していただいた他の4点の作品のご寄贈もあり(下の表No.1~4)、中野の創作活動の初期から近年までの代表的な作品を当館のコレクションに加えることができました。

近代の洋画家、鍋井克之(1888~1969)の作品、《夢殿(法隆寺)》(1930年/60.0×72.7cm/額装 ※表紙に作品紹介を掲載)も購入しました。この作品は、2001(平成13)年に特別展「鍋井克之展」を開催した際に出品していただいたことのある作品で、第17回二科展で発表された、壮年期の充実した一点です。この他にも、鍋井に師事していた画家のご遺族から、2点の作品のご寄贈をいただいています(下の表No.5~6)。

当館が開館当初から作品の収集と展覧会の開催を継続して行い、その芸術の紹介に努めてきた、当市出身の日本画家、稗田一穂(1920~2021)が昨年、満100歳で亡くなりました。その遺作を新たに18点収蔵しています。稗田が晩年に龍に取り組んで描いた作品、《蛟龍》(1999年/80.0×100.0cm/額装)を購入し、ご遺族から16点の作品をご恵贈いただきました(下の表No.9~24)。また稗田と親交のあった市内の方のご遺族からも、ご所蔵されていた作品1点をご恵贈いただいています(下の表No.8)。これらの作品を含めて、その画業を回顧する「稗田一穂展」を、本年度、和歌山県立近代美術館と共同で開催する予定です。

稗田と同じように開館当初から作品を収集してきた、当市出身の近代の洋画家、原勝四郎 (1886~1964) の作品も 1 点収蔵することができています (下の表No.7)。この作品は、1997 (平成9) 年に開催

した特別展「原勝四郎展」に出品していただいた後、所在が不明になっていたものです。昨年、市内の方からご所蔵の旨とご寄贈のお申し出をいただいて、当館のコレクションに加わりました。

昨年度は例年に比べてずいぶん多くの作品を収蔵することができました。近年コレクションの厚みを増している織の造形作品が6点、開館当初から収集を継続している作家の作品が22点で、いずれもこれまでの当館の調査、研究、展覧会活動と密接に結びついたものです。このような作品の収蔵ができるのも、当館の活動にご理解をいただいている方々のご支援があるからに他なりません。ここに改めて深い感謝の念を表します。

このコレクションの拡充を、今後の活動の進展につなげてゆきたく 思います。

(学芸員 三谷 渉)



中野恵美子《連なる》 2007(平成19)年

#### 昨年度寄贈作品

吓平及奇腊作品					
No.	作者名	作品名	制作年	材質/形状	寸法 (cm)
1	中野恵美子	華	1982(昭和57)年	ウール/立体	260×180×d.25
2	中野恵美子	Inside and Outside(内と外)	1990(平成02)年	サイザル・綿/タピスリー	160×300
3	中野恵美子	白い影	2015 (平成27)年	和紙・絹/タピスリー	175×145
4	中野恵美子	Knot Letters(結び文字)	2017 (平成29) 年	綿・リネン/タピスリー	130×108
5	鍋井克之	伊豆海岸	1929(昭和 4)年	板・油彩/額装	22.0 × 27.0
6	鍋井克之	多福多寿多男子之図	未詳	紙・顔彩・墨/軸装	35.8 × 49.2
7	原勝四郎	綱不知	1942(昭和17)年頃	板・油彩/額装	19.4 × 32.7
8	稗田一穗	熊野・千羽烏	2005 (平成17)年	紙・膠彩/三曲屏風	73.6×87.0
9	稗田一穗	秋の風景	1949(昭和24)年	紙・膠彩/額装	100.0 × 87.0
10	稗田一穗	鳥(小綬鶏)	1957(昭和32)年	紙・膠彩/額装	111.0×143.0
11	稗田一穗	棲	1958 (昭和33)年	紙・膠彩/額装	120.0×171.0
12	稗田一穗	雪後	1965(昭和40)年	紙・膠彩/額装	64.0×80.0
13	稗田一穗	首夏	1977(昭和52)年	紙・膠彩/額装	81.0×116.0
14	稗田一穗	湖雪	1981 (昭和56)年	紙・膠彩/額装	81.0×116.0
15	稗田一穗	海遊	2000 (平成12)年	紙・膠彩/額装	64.0×90.0
16	稗田一穗	伝説三熊野那智	2003 (平成15)年	紙・膠彩/額装	185.0×143.0
17	稗田一穗	耀る午後	2003 (平成15)年	紙・膠彩/額装	100.0×77.0
18	稗田一穗	驟雨去る	2004 (平成16)年	紙・膠彩/額装	91.0×70.0
19	稗田一穗	赫陽	2007 (平成19)年	紙・膠彩/額装	155.0 × 125.0
20	稗田一穗	浚湖浅春	2009(平成21)年	紙・膠彩/額装	100.0×73.0
21	稗田一穗	サイレントな窓辺	2014 (平成26)年	紙・膠彩/額装	91.0×70.0
22	稗田一穗	微風	2015 (平成27)年	紙・膠彩/額装	146.0×112.0
23	稗田一穗	春おぼろ	2016 (平成28)年	紙・膠彩/額装	73.0×91.0
24	稗田一穂	晩夏	2017 (平成29)年	紙・膠彩/額装	90.0×130.0

1 7 K 414 掣 館蔵品賀清子 眠 展示替のため休館 展示替のため休館 展示替のため休館 展示替のため休館 展示替のため休館 表現 展示替のため休館 展示替のため休館 湯川雅紀2011-20 展示替のため休館 展示替のため休館